

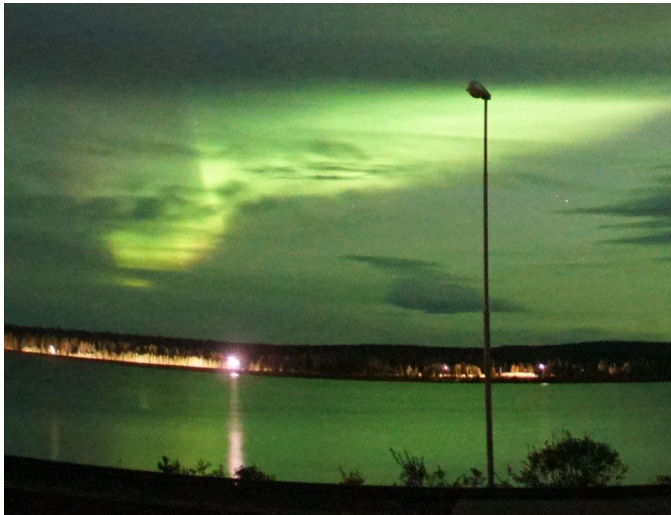
「この秋最初のオーロラ(4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

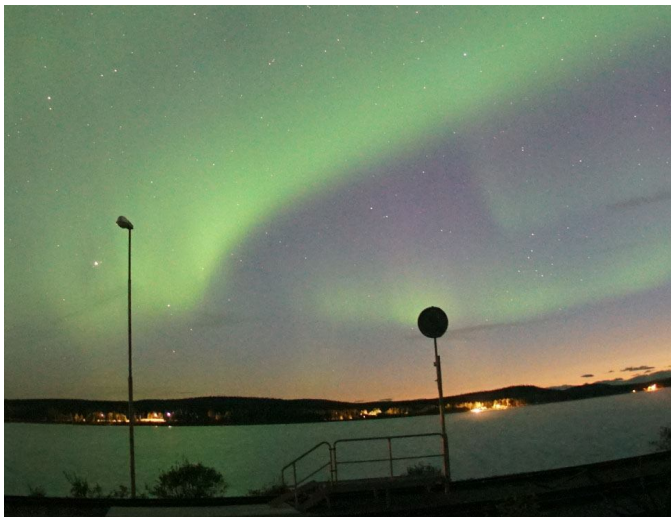
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

9月のオーロラの魅力は、何ととっても「湖が凍っていない」ということである。凍った湖上越に見えるオーロラも確かに美しい。しかし凍っていない湖には、オーロラの光が反映するのだ。



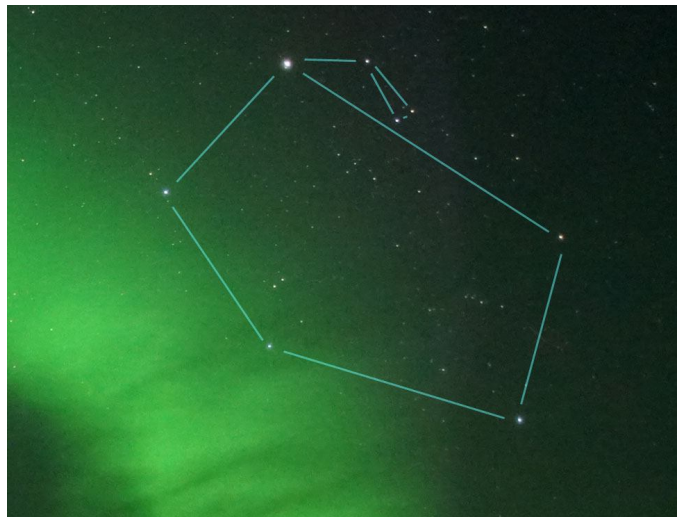
オーロラに雲がかかっている。オーロラの高度は200km~400km、雲はせいぜい高度1~10kmなので、圧倒的にオーロラのほうが高い。そのオーロラが湖面に反映しているのが美しい。街灯がいかにも邪魔で、何度か撤去の要請をしたが、実現していない。



このカメラは駅舎の事務室に設置してある。シルエットで写っている「柵」は、短いプラットホームのものだ。丸い看板は、列車を停車させるための「リクエスト・ストップ・ボード」である。一応鉄道駅ながら、システムとしては「バス停」に近い。



この駅舎に設置してあるカメラは、デジタル一眼レフカメラで、すべての機能を日本から遠隔操作可能なシステムになっている。オーロラだけでなく、恒星や惑星、時には彗星も鮮明にとらえることができる。



この日はオーロラのすぐ右上に、ぎょしゃ座が写っていた。一番上の輝星は一等星の「カペラ」だ。



秋のオーロラは、北の空にもまだ明るさが残る中に見えることが多い。冬のオーロラでは見られない、幻想的な光景が見られるのも魅力だと思う。